

第4学年 道徳科学習指導案

児童 4年2組 24名
指導者 葛西 もえ

- 1 主題名 「よさを認め、助け合う友情」 B [友情, 信頼]
教材名 ぼくらだってオーケストラ (東京書籍「道徳4年 新しいどうとく」P.82-85)

2 主題について

(1) 価値について

本単元における内容項目B「主として人との関わりに関すること」の「友情・信頼」は「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」をねらいとしている。この内容項目は、第5学年及び第6学年のB－(10)「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」に発展していく。

よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていくことができるように指導していくことが大切である。

この時期の児童は、活動範囲が広がることで集団との関わりが増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とのトラブルを引き起こすことも少なくない。友達のことをよく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切なことから本教材を設定した。

(2) 児童について

本学級の児童は、男子11名女子13名で、男女問わず仲良く関わり合っている。4月はなかなか相手の考えを受け入れられずにネガティブな反応をする児童が多く、各々の主張がぶつかり合う場面も少なくなかったが、一学期末頃から、徐々に相手の話に耳を傾けるようになり、子ども同士で解決に向けて話し合うようになってきた。1学期の学校生活を経て、自分の利害関係が中心の友達関係から、学級のよりよい友達関係を築こうという気持ちが芽生えつつある。

これまでの道徳の学習を通して、相手を思いやることのよさについては考えてきているが、お互いの理解の上で、よさを認めあったり、助け合ったりする友情についての考えを学び合う学習が、今後より一層重要である。

今回の授業では、教材の中の主人公てつおの立場に立って考えを深めていく扱いとする。初めは助言を受け入れられなかったてつおが、相手のよさを受け入れようと思った心の内を問う。そして、話し合いを通して、相手のよさを認めることで、助け合いが生まれ、友達とよりよい関係を築くことができることに気付かせたい。

(3) 指導にあたって

「深める・つかむ」段階では、少しずつ相手のよさを認めていくてつおの心の内を考え、自我関与させていきたい。また、なつみの存在の必要性について考える揺さぶりの発問を通して、なつみに対する思いや友だちと助け合うよさについて多面的・多角的に考えさせ、友情・信頼の価値に迫りたい。

「見つめる」段階では、友達と協力した経験を問い、これまでの自分自身を振り返らせることで、友だちの大切さを実感できるようにする。自分の考えを表現するのに時間がかかる児童もいるため、振り返りの時間を充分とれるよう進める。

「まとめる」の段階では、自分自身の行動を想起しながらその時に感じたことを振り返り、お互い親切に、助け合うことが、お互いに分かり合うことで育まれる心情を感じ取らせたい。

てつおの心情を語らせる手立てとして、てつおスケールを用いる。なぜ、その位置に貼ったのか、理由を問い、てつおの心情を具体的に語らせたい。また、気持ちの変化を磁石の位置で表し、全体の思考の傾向を可視化したり、友だちがどのように考えているのかをとらえやすくしたりする。

3 本時の指導

(1) ねらい

てつおの心の動きを考えることを通して、互いに理解し励まし合いながら、友達と助け合おうとする心情を育てる。

(2) 研究仮説の具現化に向けた手立て

①自我関与のさせ方の工夫

場面	ねらい	手立て
楽器が苦手なてつおが、教えてくれるなつみの言うことを、受け止められない場面	相手のよさを認められず、助言を受け入れられないてつおの気持ちに共感しながら考えさせる。	・板書による考えの可視化 ・てつおスケール

②多面的・多角的に考えさせる場のあり方

場	ねらい	手立て
てつおができるようになっていく心情を考えさせる場。 友だちと一緒に活動するよさを考えさせる場。	自分がよりよい姿に近づくことができたのは、友達のよさや助けを受け入れたからであると気付かせ、道徳的価値の理解を図る。	・てつおスケール

③自分を振り返られる工夫

発問	ねらい	手立て
協力して取り組んだことがありますか。そのときどんな気持ちでしたか。	友だちと助け合った経験を振り返り、友達の大切さを実感できるようにする。	・ワークシート

(3) 展開

	学習内容と主な発問	期待される児童の反応	指導上の留意点 (留意点・評価★)
導入 気づく 3分	1 友達との関わりを想起する。 ○「オーケストラってなに？」	・演奏する ・一緒に ・協力して	・てつおの友達への関わり方や気持ちの変化に注目しながら聞くよう声をかける。
展開前段 深める 15分	2「ぼくらだってオーケストラ」を読んで話し合う。(教材提示) ① なつみの助言を受け入れられないてつおの気持ちを考える。 ○なつみに「あなが半分あいている」と言われたのに、知らんぷりしたのはなぜでしょう。 ② 相手のよさを受け入れ始めたてつおの気持ちを多面的に考え、価値に気付く ○少しだけ練習してみようと吹いてみたのは、てつおにどんな気持ちがあったからでしょう。	・やりたくないな。 ・教えてもらったって、できないものはできない! ・自分ができるからって、えらそうにするなよ。 ・教えてもらうって、ぼくの方が下みたいに感じる。 ・いうことを聞いたら、できない自分を認めたことになる。 ・なつみのアドバイス通りにしたらできるかな。 ・やってみようかな。 ・音楽が得意ななつみの言うことなら聞こうかな。	・読む前に、簡単に登場人物を確認する。 ・できないことがあると、人の親切も素直に受け入れられないことがあることに気付けるようにする。 ・てつおの気持ちをてつおスケールを用いて示し、てつおの行動の裏にある気持ちを語ることができるようにする。〔手立て1〕 ・なつみのよさに気づき、助言を少しずつ受け入れ始めたてつおの気持ちに気付けるようにする。

		◎ドレミを書いているなつみを見ながら、てつおはどんなことを考えているでしょう。 (挿絵提示)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日、なつみのいう通りにやったらうまくいったから、言うことを聞いてみよう。 ・できるようになりたいから、なつみの言う通りにしてみようかな。 	・てつおの気持ちをてつおスケールで表したあと、どのように変化したのかを話せるようにする。[手立て2]
つかむ	8分	○てつおは、なつみに教えてもらわなくてもできるようになったのではないかと？ ○自分のことのように喜んでくれたなつみを見たてつおは、どんなことを思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・でも、教えてくれたからコンサートに間に合った。 ・一緒にやったからこそ、達成感を味わった。 ・なつみのおかげでできるようになった。 ・励ましてくれて、ずっと教えてくれてありがとう。 ・一緒だからあきらめずに頑張れたよ。 ・ぼくも得意なことを教えてあげたいな。 ・いい友達だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーをできるようになることだけに注目しないよう、協力することのよさに気付かせる。 ・友達のよさや助けを受け入れることで、自分がよりよい姿に近づくことができることに気付かせる。[手立て2] ★友達のよさを認め、互いに助け合って仲よくするよさについて考えることができる。(発表)
展開後段	見つける 15分	3 自分自身を見つめ、互いの意見を交流する。 ○友達と力を合わせて、何かしたことはありますか。その時、どんなことを思いましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会のこと ・係活動のこと ・授業中のこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と友達との関りにおいても、互いに助け合うことで友情が深まることに気付けるようにする。 ★学習を通して学んだことや、これまでの自分はどうだったか、これからの友だちとの関わり方について自分なりに考えて記述している。(ワークシート・発表)
終末	まとめる 4分	4 まとめる 自分自身を振り返りながら、教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットチームでアドバイスをもらった話 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを振り返りながら、説話を通して相手のよさを認め、受け入れることについて心の中にとどめるようにする。

4 板書計画

第19回 道徳

「ぼくらだつてオーケストラ」

いい友達だなあ、よりなかなくなったよさをみつけた

- ・一緒にやったから、達成感
- ・一緒だからあきらめずにできた
- ・コンサート楽しみ!

- ・昨日のことがあったから
- ・もっとできるようになりたい。

- ・できるようになりたいな
- ・なつみのいう通りにしてみようかな
- ・音楽が得意ななつみの言うことなら

- ・えらそうにするなよ
- ・できないものはできない。
- ・ほっといて!

てつおスケール



体育が得意

音楽が得意



19 ぼくらだってオーケストラ

月
日

組
番

名前

■ へ自分のことについて考えよう
今まで、友だちといっしょに何かしたことはありますか？



・ どんなことをしましたか？

・ ○○さんと何かする時に大切にしたいことはなんですか？

〈教材分析図〉

1 教材名 ぼくらだってオーケストラ (東京書籍)

2 ねらい 友だちと互いに理解し励まし合いながら、助け合おうとする心情を育てる。

<p>主な場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の音楽会に出場することが決まった。 ・楽器が苦手なてつお ・なつみが教えてくれるが、受け止めきれない。「さかあがりもできないくせに。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・なつみの言われた通りにやったら、良い音が出た。 ・なつみの助けを受け入れ、気持ちの良い音が出るようになり喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習を重ね、できるようになった。 ・なつみが自分のことのように喜んでくれた。 ・音楽会が楽しみになってきた。
<p>心の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーなんてやりたくない。 ・教えてもらったって、できないものはできないんだ。 ・教えられるって、なんだか見下されているみたい ・自分ができるからって、いい気になるなよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・なつみの言うこともわかるけど、言うこと聞くのは嫌だな。 ・なつみの言うとおりにしたらできたぞ。 ・練習を頑張ってみようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なつみのおかげでできるようになった。 ・一緒に頑張ることができた。 ・なつみの言うとおりにしてよかった。 ・ぼくも得意なことを教えてあげたいな。
<p>価値の関連</p>			
<p>気付かせたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できないと悔しい。 ・教えてもらってもなかなか受け入れられないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の良いところを認めることも必要。 ・よさや助けを受け入れようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの教えを受け入れることのよさ。 ・なつみのおかげでがんばれたよ。 ・教えてくれてありがとう。 ・助け合うってすてきだな。
<p>主な発問</p>	<p>なつみに「あなが半分あいている」と言われたのに、てつおが知らんぷりをしたのはなぜでしょう。</p>	<p>教えてくれるなつみを見ながら、てつおはどんなことを考えているでしょう。</p>	<p>自分のことのように喜んでくれたなつみを見たてつおは、どんなことを思ったでしょう。</p>